

# 福島第一原子力発電所 2号機 原子炉格納容器内部調査 実施結果

2019年2月28日

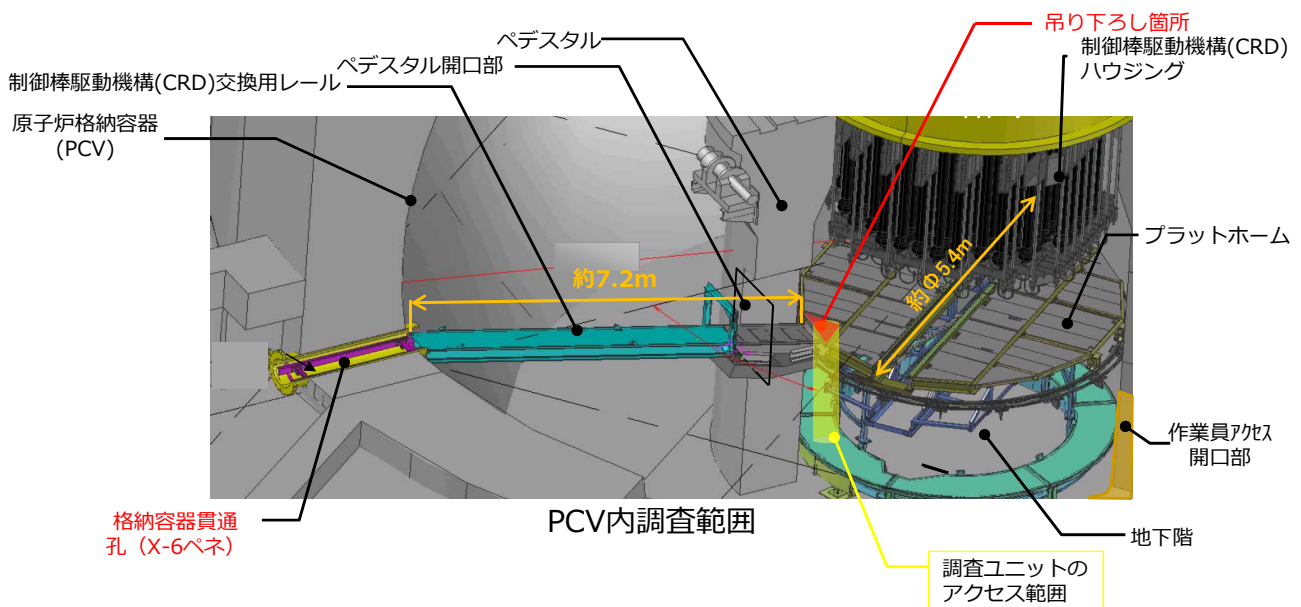
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

## 1. 原子炉格納容器内部調査の概要

TEPCO

- 今回の原子炉格納容器（PCV）内部調査においては、前回調査（2018年1月）と同じ箇所より調査ユニットを吊り下ろし、調査を実施。
- 今回の調査では、ペDESTAL底部の堆積物に接触し、その状態の変化を確認するとともに、前回調査より更に堆積物へ接近した状態で映像、線量、温度データを取得した。

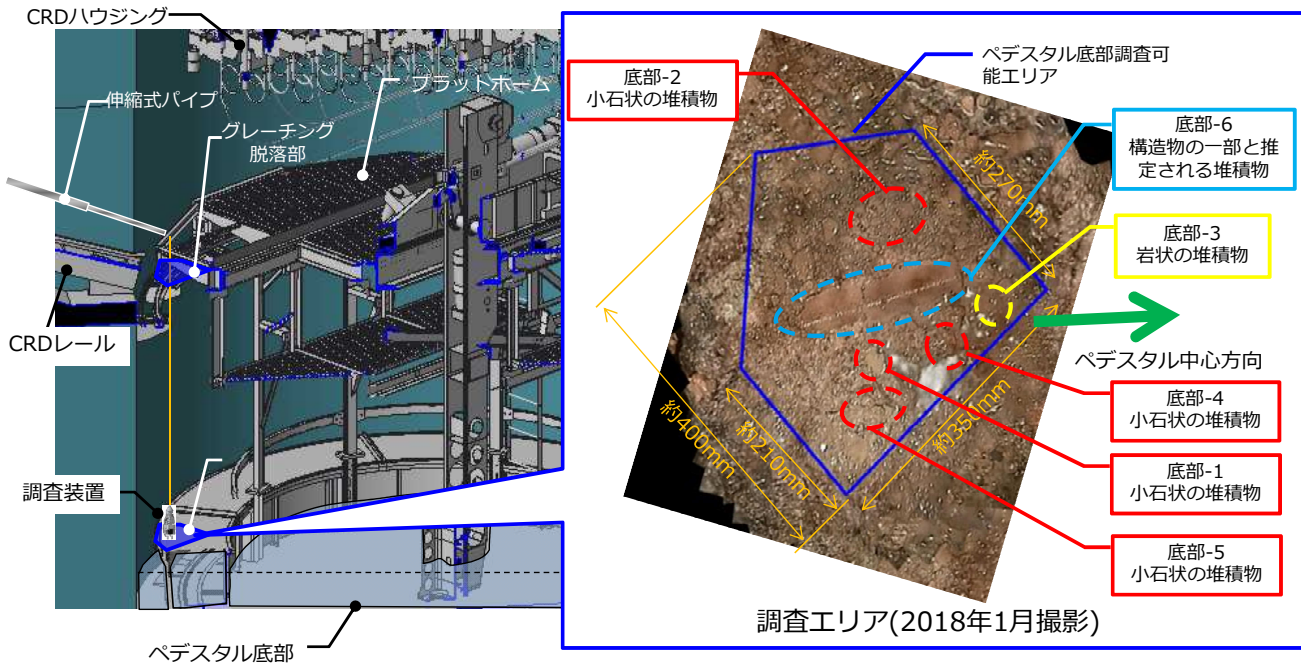


## 2. 接触調査箇所 (1/2)

■ 今回接触した堆積物について、以下の3つに分類して結果を纏めた。

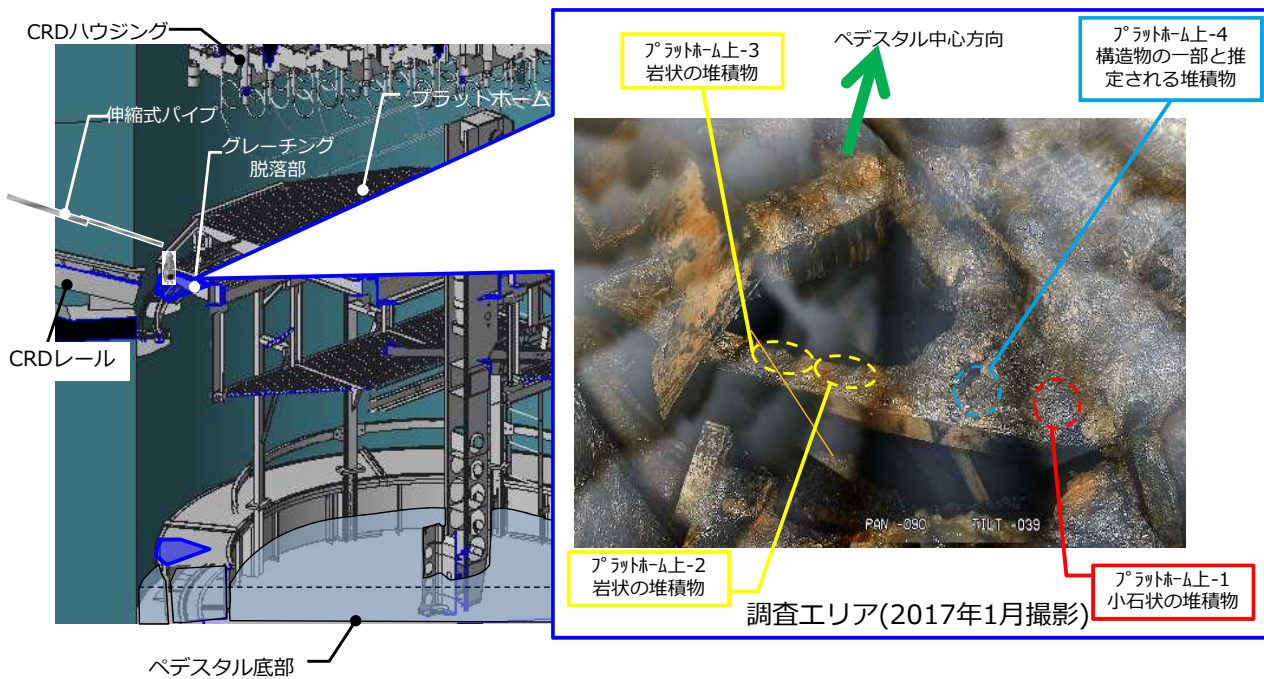
①小石状の堆積物※1 ②岩状の堆積物※1 ③構造物の一部と推定される堆積物

※1 ; 外観から輪郭が確認できるものを「小石状」、輪郭が確認できないものを「岩状」と分類した。



2

## 2. 接触調査箇所 (2/2)

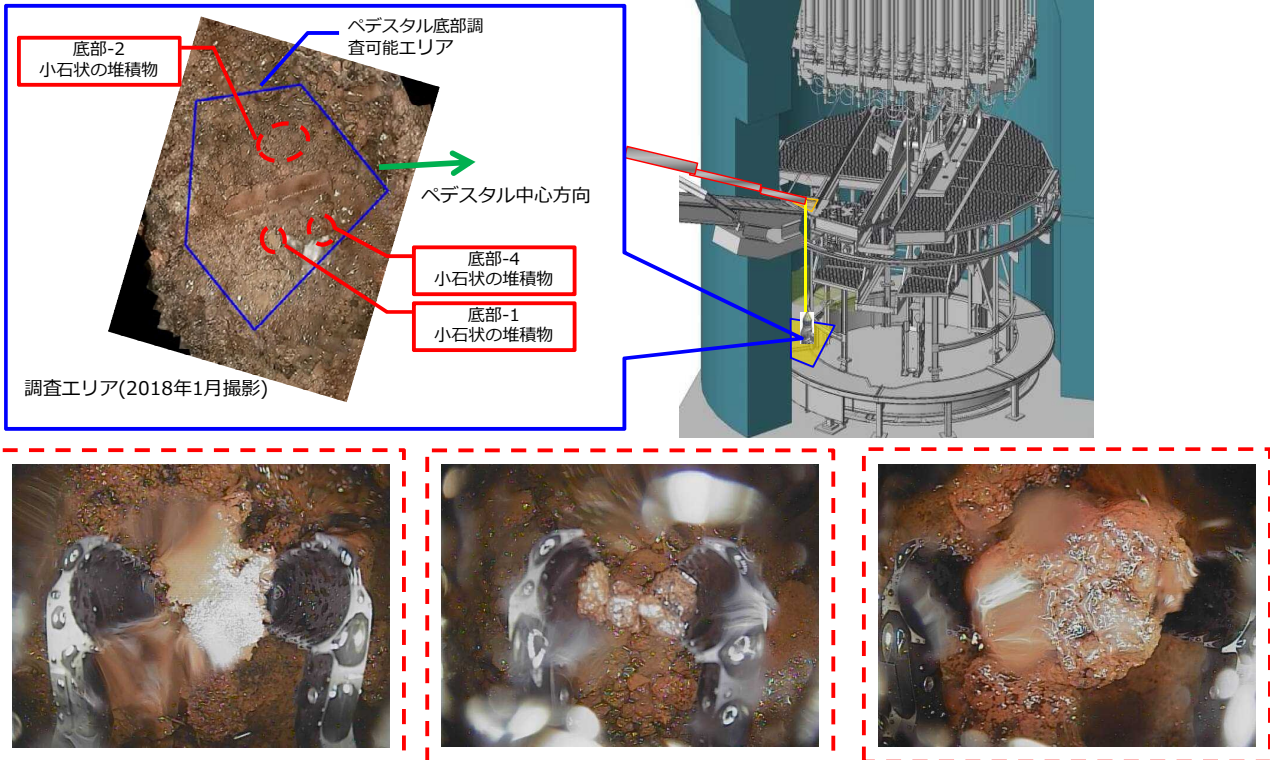


3

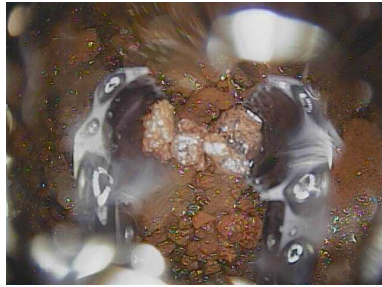


### 3. 調査結果（ペDESTAL底部）（1/3）

- 小石状の堆積物が動くことを確認した。



底部-1の調査状況



底部-2の調査状況

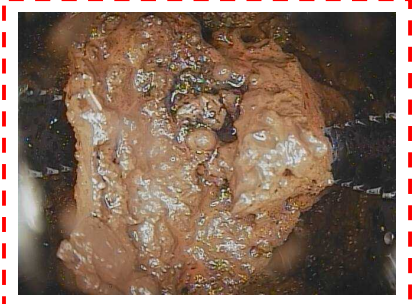
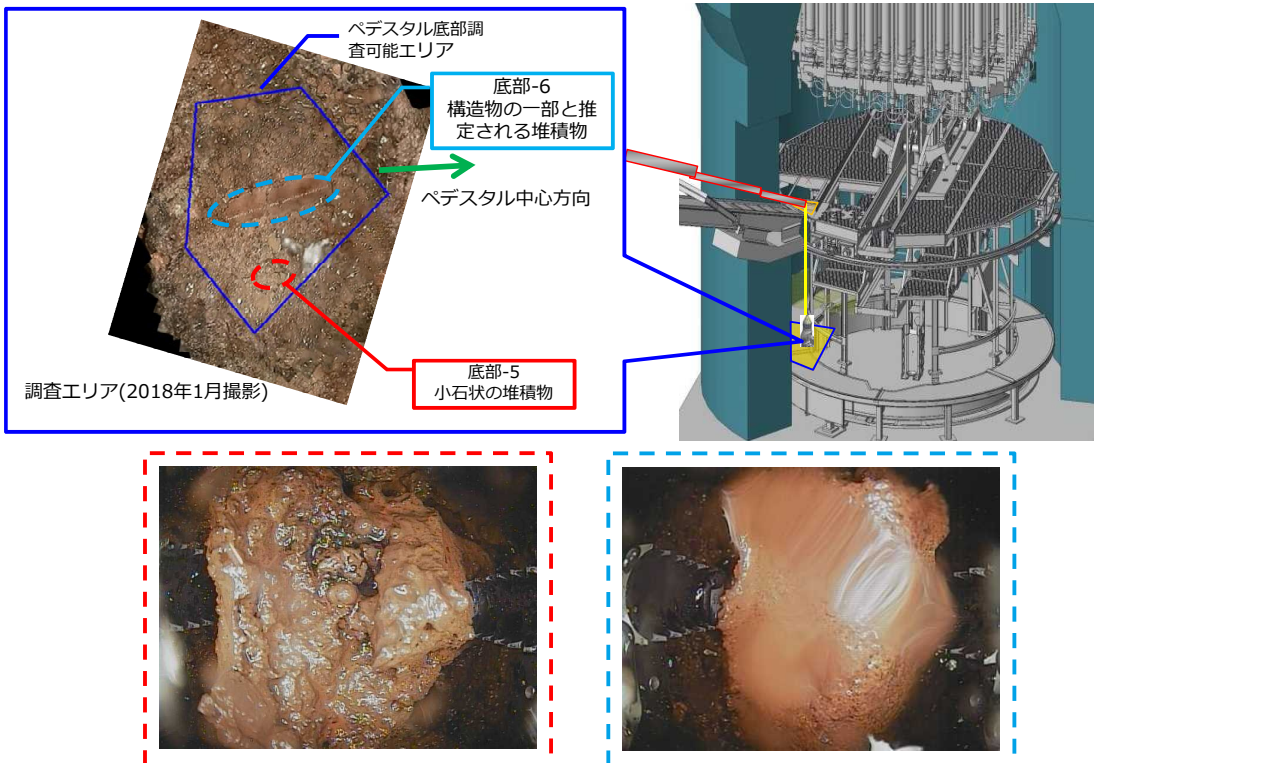


底部-4の調査状況

調査日：2019年2月13日

### 3. 調査結果（ペDESTAL底部）（2/3）

- 小石状の堆積物，構造物の形状をした堆積物が動くことを確認した。



底部-5の調査状況

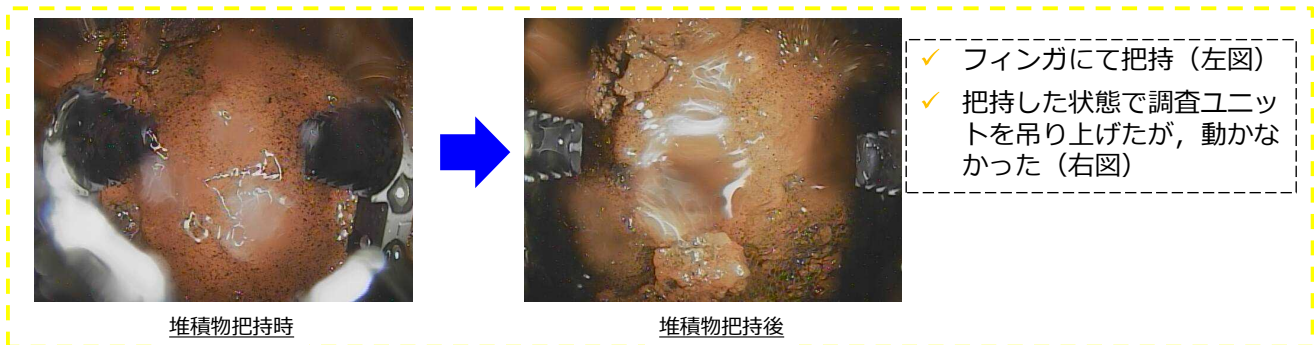
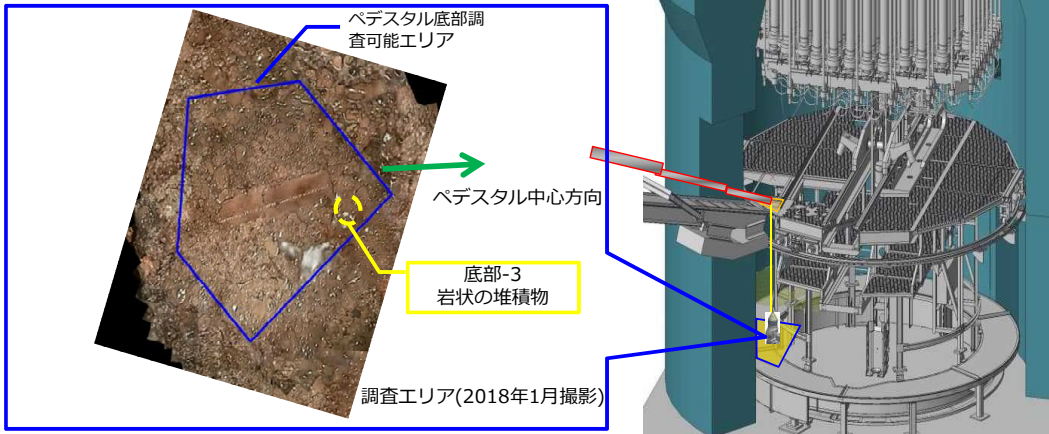


底部-6の調査状況

調査日：2019年2月13日

### 3. 調査結果（ペDESTAL底部）（3/3）

■ 岩状の堆積物は動かないことを確認した。また映像上、接触痕は確認できなかった。

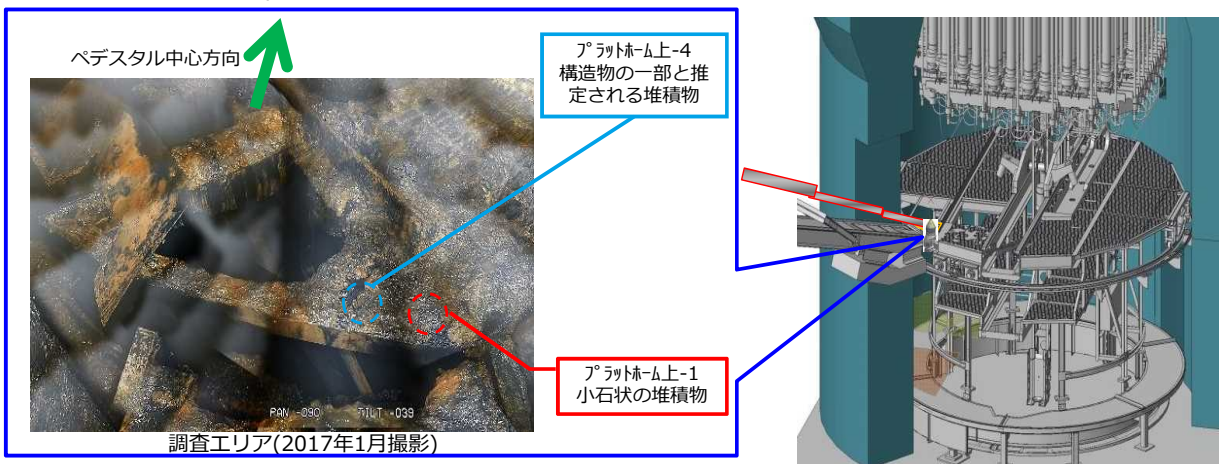


底部-3の調査状況

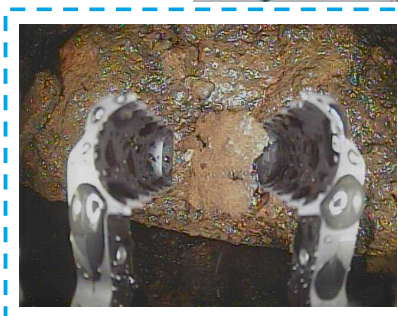
調査日：2019年2月13日

### 3. 調査結果（プラットフォーム上）（1/3）

■ 小石状の堆積物，構造物の形状をした堆積物が動くことを確認した。



プラットフォーム上-1の調査状況



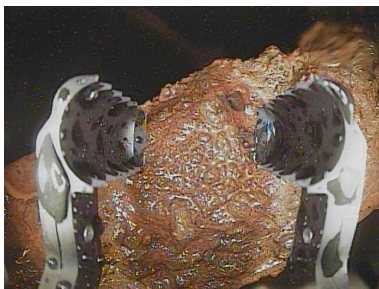
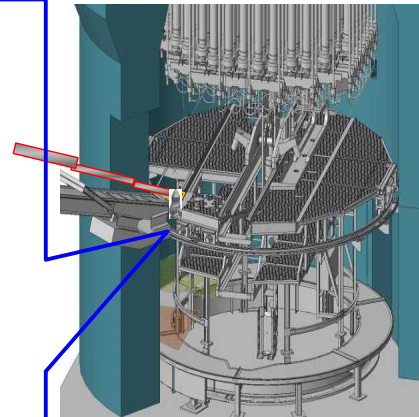
プラットフォーム上-4の調査状況

調査日：2019年2月13日



### 3. 調査結果（プラットフォーム上）（2/3）

- 岩状の堆積物は動かないことを確認した。また映像上、接触痕は確認できなかった。



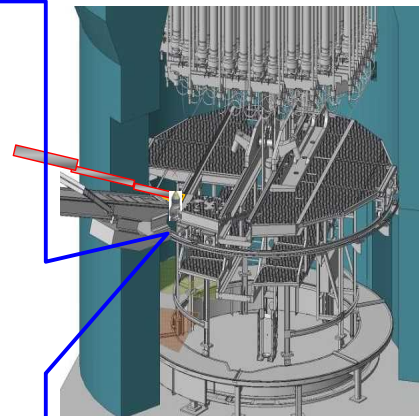
- ✓ フィンガにて把持（左図）
- ✓ 把持した状態で調査ユニットを吊り上げたが、動かなかった（右図）

プラットフォーム上-2の調査状況

調査日：2019年2月13日

### 3. 調査結果（プラットフォーム上）（3/3）

- 岩状の堆積物は動かないことを確認した。また映像上、接触痕は確認できなかった。



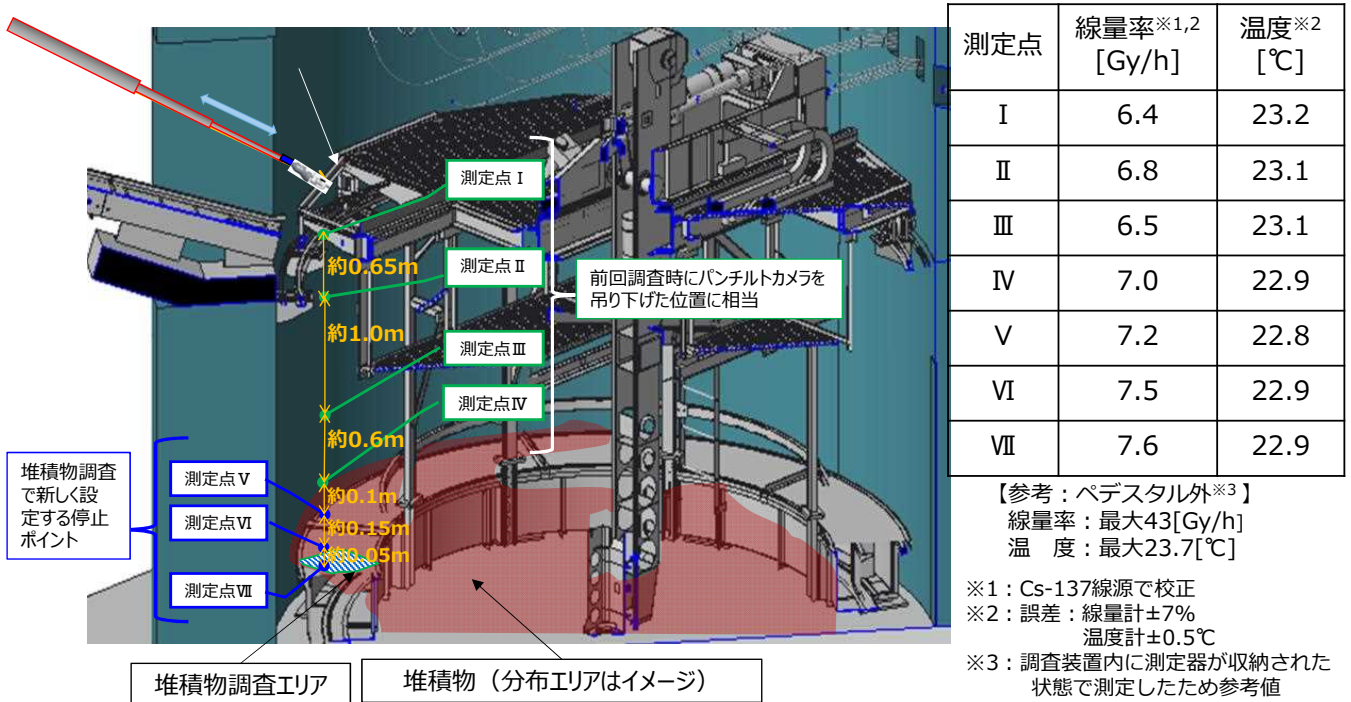
- ✓ フィンガにて把持（左図）
- ✓ 把持した状態で調査ユニットを吊り上げたが、動かなかった（右図）

プラットフォーム上-3の調査状況

調査日：2019年2月13日

## 4. 線量・温度の測定結果

- 温度については、測定高さに係わらず、ほぼ一定の値であった。
- 線量については、ペDESTAL内において、ペDESTAL底部に近づくると上昇する傾向を確認した。



10

## 5. まとめ

- 燃料デブリ取り出しに向けて、内部調査による状況把握や、把持装置や切削装置などの研究開発、研究成果の現場適用性の検討等を進めてきたところ。
- 今回の接触調査により、以下の情報を得ることができた。
  - 1) 燃料デブリの性状
    - ✓ これまでも、燃料デブリの性状の推定を進めており、小石状の燃料デブリを把持する方法や、岩状の燃料デブリを切削により加工して取り出す方法等の検討を進めていたところ。
    - ✓ 今回の接触調査により、小石状・構造物状の堆積物を把持して動かせること、把持できない硬い岩状の堆積物が存在する可能性があることを確認した。
    - ✓ また、堆積物にカメラをより接近させることで、堆積物の輪郭や大きさの推定に資する映像を取得することができた。
  - 2) 格納容器内の環境に関する情報
    - ✓ 線量については、ペDESTAL内において、格納容器底部に近づくるとやや高くなる傾向を初めて確認した。なお、前回調査と同様、ペDESTAL外よりペDESTAL内が低い傾向であることを確認した。
    - ✓ 温度については、前回調査と同様、測定高さに係わらず、ほぼ一定の値であった。
- 今回得られた情報は、今後の内部調査や燃料デブリ取り出し方法の検討（取り出し箇所、装置の設計等）に活用していく。

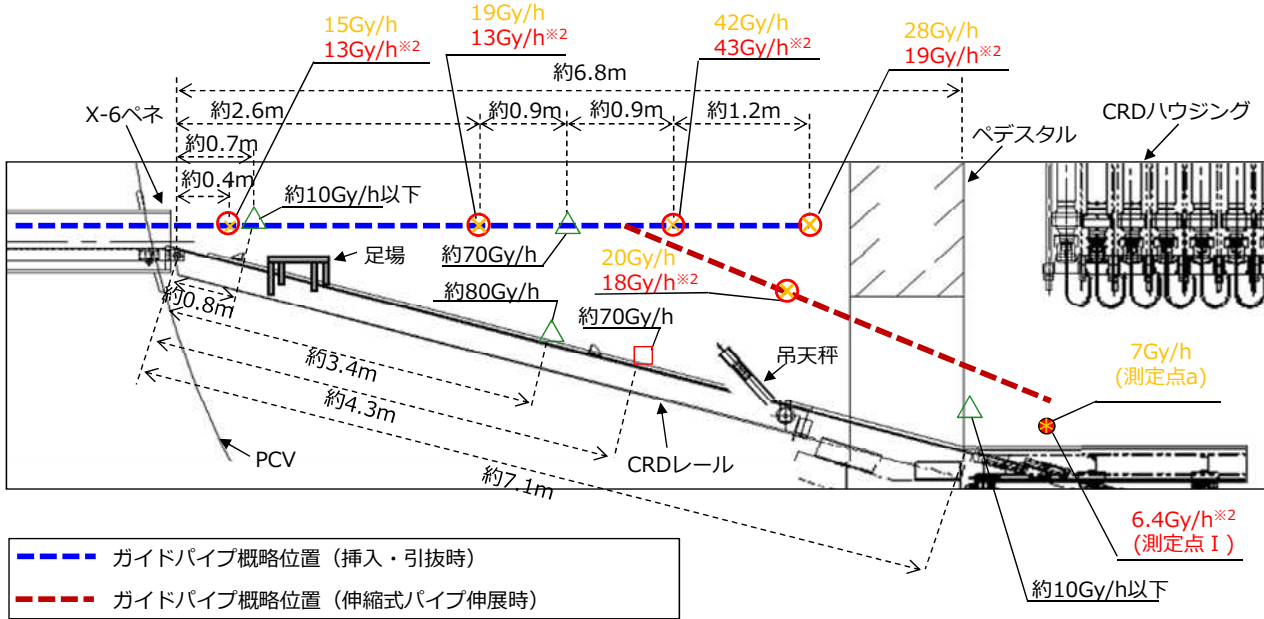
11



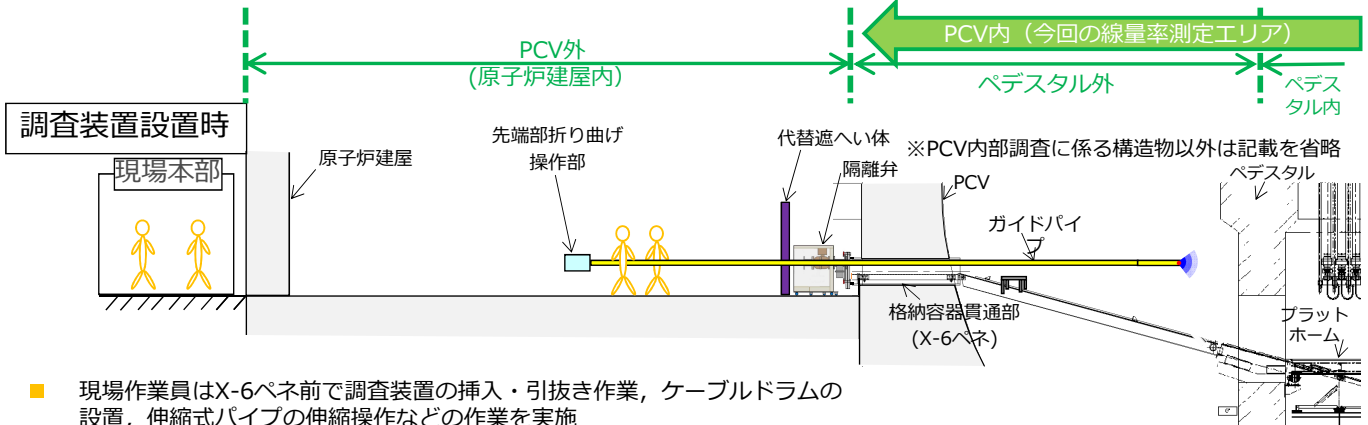
# 参考：参考線量率測定箇所

- 測定箇所 (今回調査) ○ 参考測定箇所 (今回調査) ※1
- \* 測定箇所 (2018年1月調査) × 参考測定箇所 (2018年1月調査) ※1
- △ 2017年調査測定箇所 (カメラ画像ノイズから推定)
- 2017年調査測定箇所 (積算線量計を用いて算出)

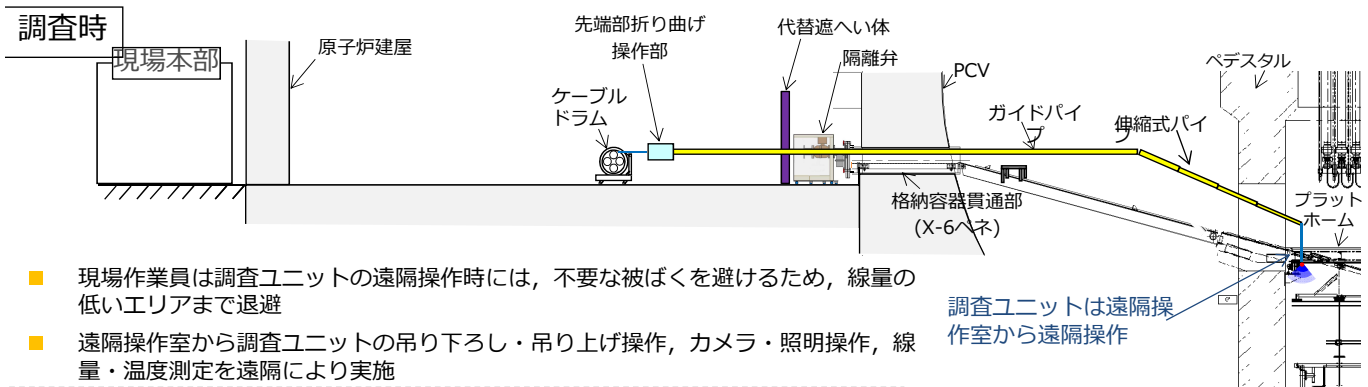
※1：調査装置内に測定器が収納された状態で測定したため参考値  
 ※2：調査装置の仕様の違いにより、今回と前回の測定箇所は全く同じではない



# 参考：作業エリアと線量率測定エリアの位置関係



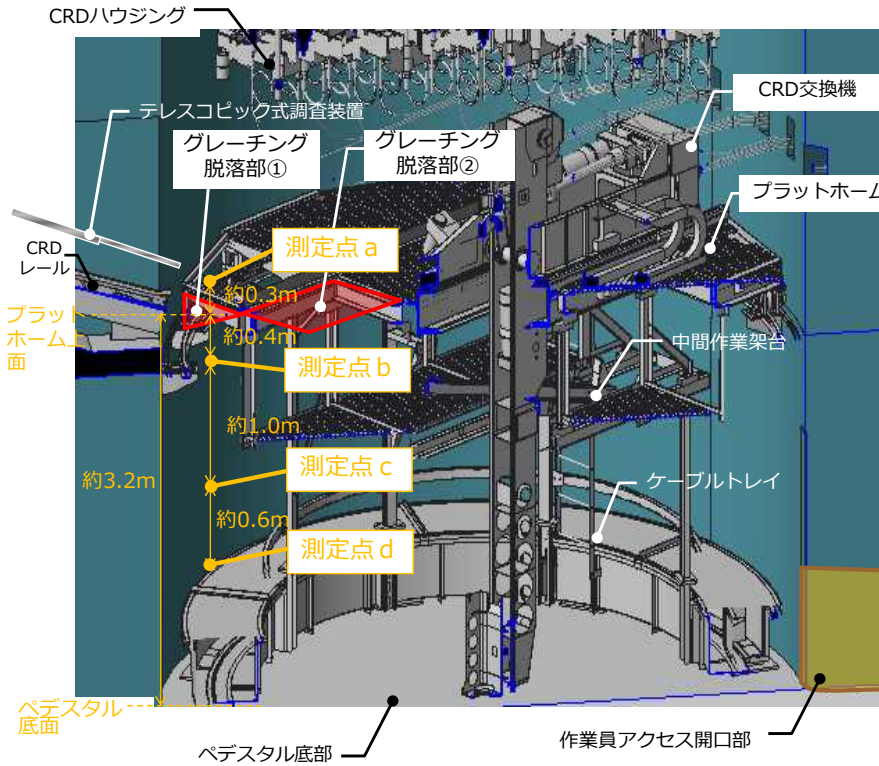
- 現場作業員はX-6ペネ前で調査装置の挿入・引抜き作業、ケーブルドラムの設置、伸縮式パイプの伸縮操作などの作業を実施



- 現場作業員は調査ユニットの遠隔操作時には、不要な被ばくを避けるため、線量の低いエリアまで退避
- 遠隔操作室から調査ユニットの吊り下ろし・吊り上げ操作、カメラ・照明操作、線量・温度測定を遠隔により実施

調査ユニットは遠隔操作室から遠隔操作

・2019/2/13 (調査当日) 被ばく線量  
 計画：3.00[mSv/日] 実績：平均0.26[mSv/人] 最大0.68[mSv]



測定点	線量率※1,2 [Gy/h]	温度※2 [°C]
a	7	21.0
b	8	21.0
c	8	21.0
d	8	21.0

【参考：ベデスタル外※3】  
線量率：最大42[Gy/h]  
温度：最大21.1[°C]

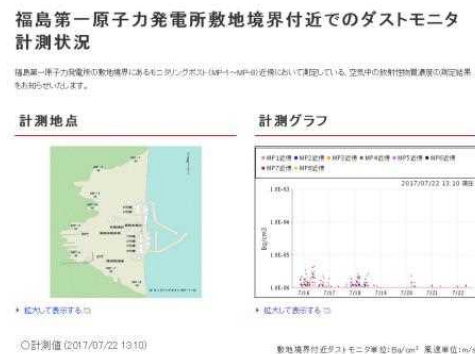
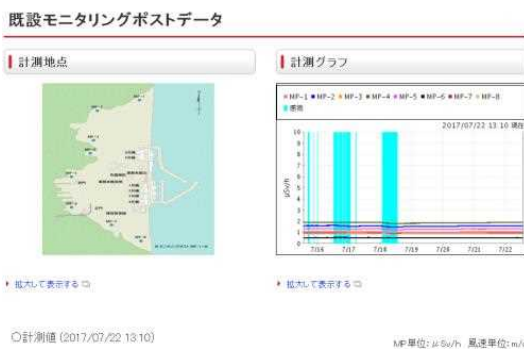
- ※1：Cs-137線源で校正
- ※2：誤差：線量計±7%  
温度計±0.5°C
- ※3：調査装置内に測定器が収納された状態で測定したため参考値

参考：環境への影響について（1/2）

- 2号機原子炉格納容器の内部調査を2月13日に実施していますが、**周囲への放射線影響は発生していません。**
- 調査においては**格納容器内の気体が外部へ漏れないようバウンダリを構築して作業を実施しました。**
- **作業前後でモニタリングポスト／ダストモニタのデータに有意な変動はありません。**
- **敷地境界付近のモニタリングポスト／ダストモニタのデータはホームページで公表中です。**

参考URL：<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/index-j.html>  
<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/dustmonitor/index-j.html>

（参考）ホームページのイメージ



\* 原子炉格納容器内部以外からの線量寄与も含めた線量



- 2号機原子炉格納容器の内部調査を2月13日に実施していますが、調査中のプラントパラメータについても常時監視しており、**作業前後で格納容器温度に有意な変動はなく、冷温停止状態に変わりはありません。**
- 原子炉格納容器内温度のデータはホームページで公表中です。

参考URL：[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/plantdata/unit3/pcv\\_index-j.html](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/plantdata/unit3/pcv_index-j.html)

（参考）ホームページのイメージ

